

40歳以降に結婚した人の9割が「結婚してよかった」

—「40代～60代の結婚等に関する調査」結果より—

ダイヤ高齢社会研究財団 企画調査部長・シニアアドバイザー

森 義博



令和2年国勢調査によると、2020年における50歳時の未婚割合（旧「生涯未婚率」）は男性が28.3%、女性は17.8%。かつて日本は皆婚社会と言われていましたが、男性は1980年代後半頃、女性は2000年を過ぎた頃から50歳時の未婚割合は顕著に上向きはじめ、今後さらに上昇すると予測されています。50歳時の未婚を“生涯未婚”と称したのは、結婚と出産を結びつける発想も理由の1つと思われませんが、ライフスタイルが多様化する現代では、50歳は1つの通過点にすぎず、その前にも後にも結婚を含めた変化は自然だと考えます。

本調査では、40代から60代の配偶者のいない人、40歳以降に結婚（含 再婚）した人を対象に、結婚に関連する意識と実態を探りました。本稿ではその中から、40歳以降に結婚した人に関する調査結果の一部をご紹介します。

◆1◆ 調査の概要

- 調査期間：2023年1月30日～31日
- 調査方法：インターネット調査（株式会社ネオマーケティングの登録モニター対象）
- 調査対象：全国の40～69歳の男女のうち次表の該当者

		40～49歳	50～59歳	60～69歳	計	
配偶者あり (直近の結婚の年齢40歳以上)	男性	200	200	200	600	
	女性	200	200	200	600	
配偶者なし	結婚経験なし	男性	200	200	200	600
		女性	200	200	200	600
	離死別	男性	100	100	100	300
		女性	100	100	100	300
合計(男女計)		1,000	1,000	1,000	3,000	

(※) 性・年齢階級・配偶状況ごとに相当数の標本を集め分析することを目的としたため、人口比等に基づく補正は行っていない。

◆2◆ 調査結果（一部）

(1) 40歳以降に初めて結婚した人の9割が、結婚してよかったと回答

40歳以降に初めて結婚した調査時現在50代と60代の男女に、結婚したことに対する現在の気持ちを尋ねました。

男性は、50代の55.6%、60代の58.9%が「結婚してよかった」と回答。「どちらかといえば結婚してよかった」を加えた“肯定派”が9割を超えました。“否定派”（「どちらかといえば結婚しないほうがよかった」「結婚しないほうがよかった」）は50代が7.9%、60代は8.4%にとどまっています。女性も“肯定派”が9割（50代90.2%、60代89.1%）を占め、“否定派”は1割（50代9.8%、60代10.9%）でした。

40歳以降に結婚した方の殆どが、結婚した現在の生活を肯定的にとらえていることが明らかになりました。なお、“肯定派”の割合に男女差はほぼなかったものの、「結婚してよかった」とはっきり肯定した割合には男性が女性を上回る傾向が見られ、男女の温度差がやや感じられる結果となりました。

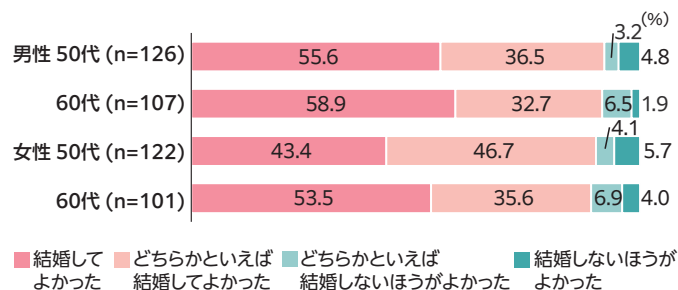


図1 結婚したことに対する自己評価
(40歳以降に初めて結婚した人)

(2) 結婚してよかったと思うことのトップは、男性と50代女性は「家族が増えた」、60代女性は「好きな人と一緒に過ごせる」

40歳以降に初めて結婚した50代と60代の男女に、結婚して「よかった」と思うことを尋ねました。(1)での“否定派”も回答者に含まれます)

50代は男女ともに「家族が増えた」(男性52.4%、女性48.4%)がトップ。「好きな人と一緒に過ごせる」(男性45.2%、女性33.6%)が続きます。60代も上位2つの顔ぶれは同じですが、女性の44.6%が「好きな人と一緒に過ごせる」を挙げた点が特徴的です。

さらに、「プライベートの時間が充実した」、「趣味や楽しみが増えた」も2割前後の人が挙げています。後述の(3)で結婚と自由が相反する傾向が見られた一方で、よかったと思う要素としてこうした回答が一定数存在したことは、結婚を検討する方の不安の緩和につながるかもしれません。

「健康的な生活になった」と「経済的に豊かになった」には男女の違いが際立ちます。「健康的な…」は男性の約4人に1人が挙げているのに対し、女性は1割強。「経済的に…」は、女性は50代が15.6%、60代は27.7%なのに対し、男性は1割未満でした。生活の中で結婚が大きく影響する部分に男女の違いが存在することの表れでしょう。

一方、「よかったと思うことはない」と回答した人は男女とも1割未満にとどまりました。これは前述の(1)で結婚したことに対する“否定派”がごく少数だった点と呼応していると言えるでしょう。

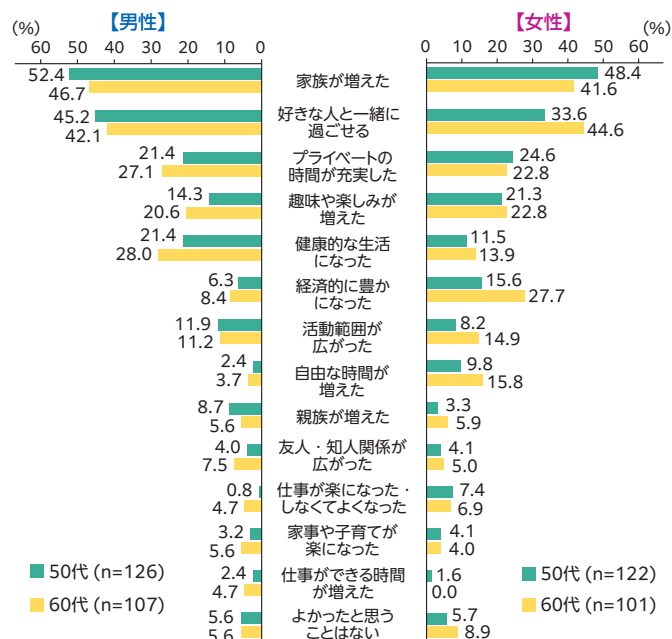


図2 結婚してよかったと思うこと (40歳以降に初めて結婚した人) (複数回答)

(3) 結婚してよくなかったと思うことは、男性は「自由な時間の減少」、女性は「家事負担の増加」が最多

40歳以降に初めて結婚した50代と60代の男女に、結婚して「よくなかった」と思うことを尋ねました。(1)での“肯定派”も回答者に含まれます)

50代・60代とも男性は「自由な時間が減った」(50代40.5%、60代39.3%)、女性は「家事の負担が増えた」(50代36.9%、60代32.7%)がトップでした。

2位は男性が「自由に使えるお金が減った」(50代26.2%、60代29.0%)、女性は「自由な時間が減った」(50代32.0%、60代29.7%)。男性の3位は「趣味に使える時間が減った」(50代22.2%、60代14.0%)で、自由が制限されることをよくなかった点として挙げる傾向が男女ともに見られました。

50代女性の4人に1人が「相手の親族との付き合いが煩わしい」を挙げており、同年代の男性との違いが目立ちます。

一方、50代男女と60代男性の4人に1人が「よくなかったと思うことはない」と回答しており、60代女性では4割に達している点が際立ちます。

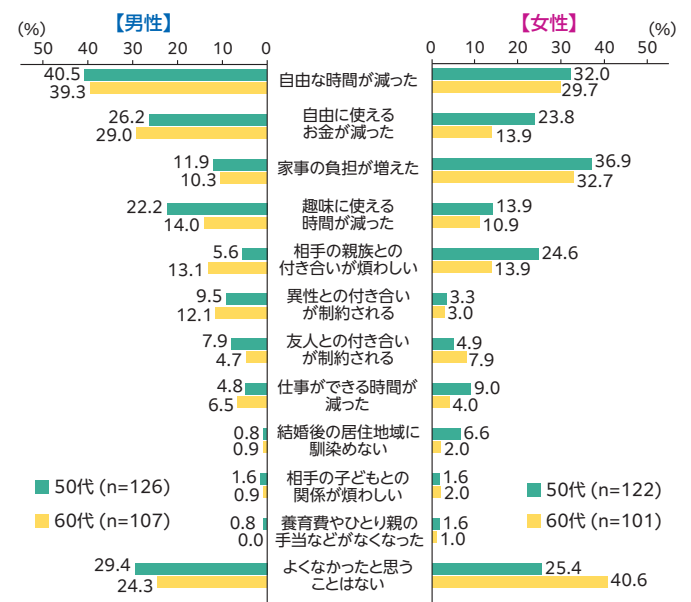


図3 結婚してよくなかったと思うこと (40歳以降に初めて結婚した人) (複数回答)

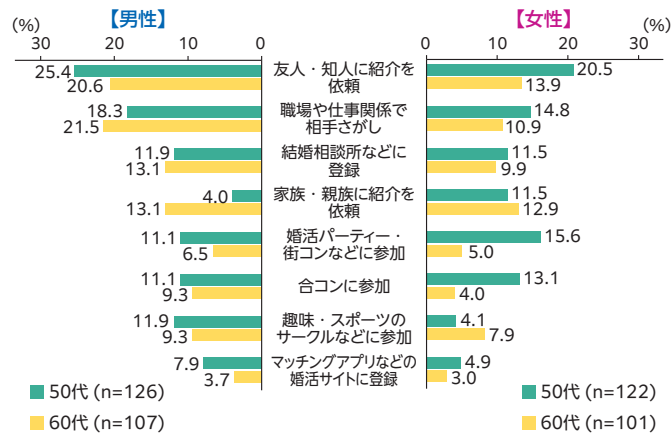
(4) 男女とも「友人・知人に紹介を依頼」したことが最も結婚につながった

40代～60代で初めて結婚した人に結婚前に行っていたことをいくつでも挙げてもらったところ、50代の回答は男女とも「友人・知人に紹介を依頼」が最多(男性25.4%、女性20.5%)で、結婚に直接結びついたもの(1つ)では

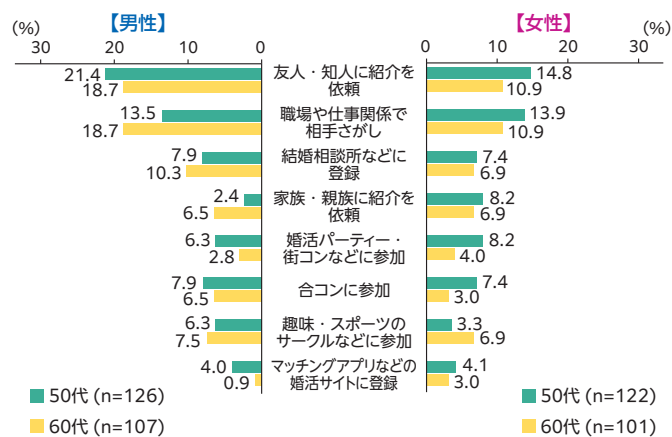
50代だけではなく60代も男女ともにトップでした。

「職場や仕事関係で相手さがし」も男性の2割前後、女性の1割強が行っており、結婚に直接結びついたものとしては、60代では同率トップ(男性18.7%、女性10.9%)です。

50代女性は友人・知人への紹介依頼に加え、職場・仕事関係、婚活パーティー、合コンと幅広く活動していた様子がうかがえます。



【行っていたこと】(複数回答)



【そのうち結婚に直接結びついたこと】(単回答)

図4 結婚前に行っていたこと (40歳以降に初めて結婚した人)

(5) 40歳以降に再婚した人の9割が再婚してよかったと回答

40歳以降に再婚(3回目以上も含む。以下同様)した50代と60代の人に、再婚したことに現在の気持ちを探ねたところ、50代は男性の60.8%、女性の52.6%が「再婚してよかった」と回答。「どちらかといえば再婚してよかった」を加えた「肯定派」が9割(男性90.5%、女性87.2%)を占めました。「否定派」(「どちらかといえば再婚しないほうがよかった」「再婚しないほうがよかった」)は男性が9.5%、女性も12.8%にとどまっています。一方、60

代の回答を見ると、「再婚してよかった」とはっきり肯定した割合は、男性が54.8%、女性は42.4%で、50代と比較すると、男性は6.0ポイント、女性は10.1ポイント低い結果となりました。

前掲(1)の初婚者の回答と重ね合わせると、「結婚(再婚)してよかった」とはっきり肯定する割合は、初婚と再婚のどちらにも、女性より男性が高いという傾向が認められました。一方、50代と60代の回答を比較すると、初婚の場合は60代のほうが50代より高く、再婚の場合は逆に50代のほうが高いという傾向が見られます。再婚によって生じる新たな人間関係や家事の増加が女性にとって負担になりがちであり、年数を重ねるうちに「再婚してよかった」とはっきり言いきれない心情をもたらすとも考えられます。

しかし、「否定派」の割合は初婚・再婚の男女ともに1割程度と極めて低く、大半の方が40歳以降での結婚を肯定的にとらえていることが明らかになりました。

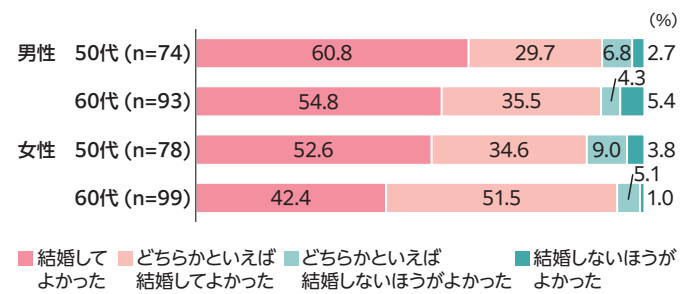


図5 再婚したことにに対する自己評価 (40歳以降に再婚した人)

(6) 再婚してよかったと思うことは、50代は男女とも「好きな人と一緒に過ごせる」が圧倒的。60代女性は「経済的に豊かになった」がトップ

40歳以降に再婚した人に再婚して「よかった」ということを尋ねたところ、50代は「好きな人と一緒に過ごせる」を男性の6割、女性の5割が挙げ、いずれもトップでした。

男女を比較すると、「プライベートの時間が充実した」「家族が増えた」「健康的な生活になった」「活動範囲が広がった」は50代・60代ともに男性が女性を上回っており、特に男性にとっては新しい伴侶を得て生活面や健康面での充実が図られている様子が見てとれます。

60代では特に男女差が目立ち、女性は「経済的に豊かになった」がトップ(41.4%)で「好きな人と一緒に過ごせる」(36.4%)が続きます。男性は「好きな人と…」が最多(52.7%)ですが、次いで「家族が増えた」と並んで「健康的な生活になった」が2位(32.3%)に入りました。50代の

男女と60代の男性では、初婚に比べて「プライベートの時間が充実した」と回答する割合が高い点が目を引きます。

「よかったと思うことはない」は初婚と同様、1割未満にとどまりました。

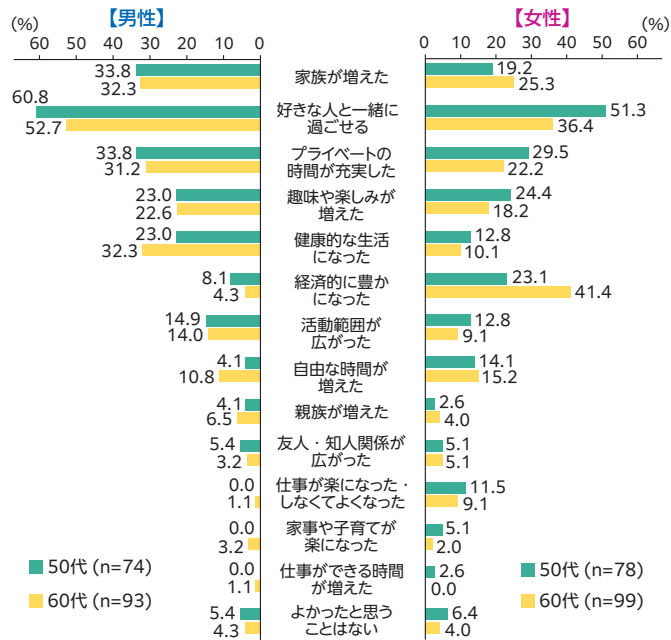


図6 再婚してよかったと思うこと (40歳以降に再婚した人) (複数回答)

(7) 再婚してよくなかったと思うことは、50代男性は「自由に使えるお金の減少」、女性は「家事負担の増加」がトップ。男女とも4人に1人が「自由な時間の減少」を挙げる

40歳以降に再婚した人に再婚して「よくなかった」ということを尋ねたところ、男性では初婚者と同様、“自由”の制約が多く挙げられました。特に「自由に使えるお金が減った」は50代男性の3人に1人が挙げ、突出しています。一方、「自由な時間が減った」は、50代は2位(25.7%)、60代ではトップ(23.7%)ではあるものの、初婚者に比べると割合はかなり低い結果となりました。再婚は初婚に比べ生活時間の変化が小さい男性が多いということでしょうか。

女性の「家事の負担が増えた」は、50代は「自由な時間の減少」と同率首位(26.9%)、60代ではトップ(30.3%)ですが、初婚者に比べると割合は低くなっています。子どもがいるなど、これまででも多くの家事をこなしてきた人が多いからと考えられます。

「よくなかったと思うことはない」を多くの人(男性の4割前後、女性の3割前後)が挙げた点は初婚者と同様です。しかし、初婚者と比較すると、男性で挙げる割合が高いこ

とがわかります(50代男性:初婚29.4%、再婚39.2%。60代男性:初婚24.3%、再婚44.1%)。再婚による生活の変化が、特に男性に高い満足度をもたらす場合が多いと言えそうです。

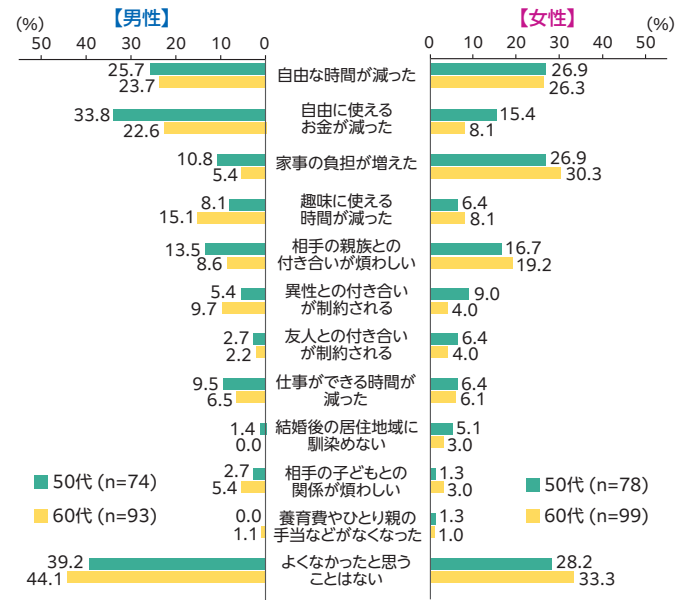


図7 再婚してよくなかったと思うこと (40歳以降に再婚した人) (複数回答)

(8) 女性の「想定寿命」は平均寿命を大きく下回る

当財団ではアンケート調査を行う際、原則として毎回、回答者に「想定寿命」(希望ではなく人生設計として考えている自身の寿命)を質問しています。

この調査での回答の平均は、50代は男女とも78歳~80歳程度、60代は81歳~83歳程度で、男女差は見られませんでした。男性は平均寿命(81.05年<2022年>)とほぼ同等ですが、女性は平均寿命(87.09年<同>)を大きく下回っています。概ね6割の人が平均寿命以上生きること考えると、老後資金準備が不十分な人が多くなることが心配されます。

なお、単身者(未婚、離死別)に比べ、40歳以降に結婚(再婚を含む)した人の「想定寿命」の平均はやや長く、85歳以上を想定している割合も高い傾向が見られました。配偶者を得たことによる生活の充実と責任感の反映でしょうか。

誌面の都合で調査結果のごく一部のみご紹介しました。この調査の質問票と回答の集計表(配偶状況・男女10歳階級別)はダイヤ財団のホームページで公開中です。